

【概要】

平成26年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（北海道）【確定値】

※ 本調査は、平成26年度間の北海道の公立学校における暴力行為、いじめ、不登校、中途退学の状況を平成27年度に調査し、公表するものです。また、本数値には、札幌市立学校も含まれています。  
 ※ 平成25年度から、暴力行為、いじめ、中途退学については、高等学校通信制課程を調査対象として含めています。

■基本となる学校数及び児童生徒数

	公立学校総数			在籍児童生徒数		
	平成25年度	平成26年度	前年度比	平成25年度	平成26年度	前年度比
小学校	1,147校	1,120校	▲27校	259,540人	254,766人	▲4,774人
中学校	633校	621校	▲12校	134,602人	132,782人	▲1,820人
高等学校	240校	239校	▲1校	110,062人	108,360人	▲1,702人
小・中・高等学校の計	2,020校	1,980校	▲40校	504,204人	495,908人	▲8,296人
特別支援学校	64校	65校	1校	5,146人	5,214人	68人
合計	2,084校	2,045校	▲39校	509,350人	501,122人	▲8,228人

※平成26年5月1日現在の数値である。

ただし、高等学校在籍児童生徒数には、高等学校通信制課程の在籍者数(25年度は3,911人、26年度は3,747人)も計上されている。  
 ※いじめにおける高等学校の学校総数は、併置校を全日制、定時制、通信制それぞれを1校で計上し、273校となる。

■結果の概要

1 公立小・中学校、高等学校の暴力行為の発生件数

	平成25年度		平成26年度		前年度比	
	発生件数	1,000人当たりの発生件数	発生件数	1,000人当たりの発生件数	発生件数	1,000人当たりの発生件数
小学校	40件	0.2	60件	0.2	20件	0.0
中学校	811件	6.0	668件	5.0	▲143件	▲1.0
高等学校	247件	2.2	228件	2.1	▲19件	▲0.1
合計	1,098件	2.2	956件	1.9	▲142件	▲0.3

2 公立小・中学校、高等学校、特別支援学校のいじめの認知件数

	平成25年度		平成26年度		前年度比	
	認知件数	1,000人当たりの認知件数	認知件数	1,000人当たりの認知件数	認知件数	1,000人当たりの認知件数
小学校	1,119件	4.3	1,036件	4.1	▲83件	▲0.2
中学校	1,557件	11.6	1,607件	12.1	50件	0.5
高等学校	409件	3.7	464件	4.3	55件	0.6
特別支援学校	33件	6.4	25件	4.8	▲8件	▲1.6
合計	3,118件	6.1	3,132件	6.2	14件	0.1

3 公立小・中学校の不登校児童生徒数

	平成25年度		平成26年度		前年度比	
	不登校児童生徒数	在籍比	不登校児童生徒数	在籍比	不登校児童生徒数	在籍比
小学校	770人	0.30%	812人	0.32%	42人	0.02%
中学校	3,255人	2.42%	3,447人	2.60%	192人	0.18%
合計	4,025人	1.02%	4,259人	1.10%	234人	0.08%

4 公立高等学校の不登校生徒数（通信制高校の在籍者を除く。）

	平成25年度	平成26年度	前年度比
不登校生徒数	981人	856人	▲125人
在籍比	0.92%	0.82%	▲0.10%

5 公立高等学校の中途退学者数

	平成25年度	平成26年度	前年度比
中途退学者数	1,764人	1,465人	▲299人
中途退学率	1.6%	1.4%	▲0.2%

## 公立小・中学校、高等学校の暴力行為

○平成25年度から、「暴力行為」については、高等学校通信制課程を調査対象として含めています。

### 1 暴力行為の発生件数の推移

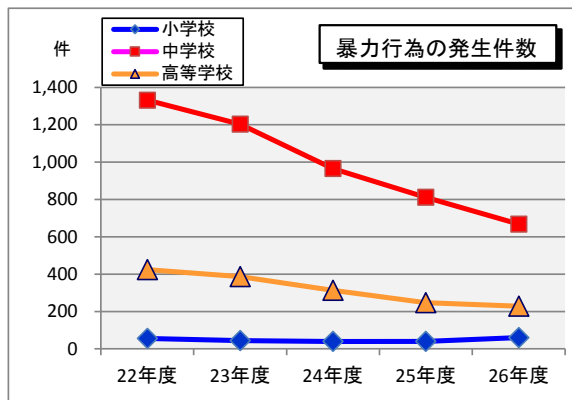
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
小学校	55	44	39	40	60
中学校	1,332	1,203	965	811	668
高等学校	424	387	313	247	228
計	1,811	1,634	1,317	1,098	956

#### <経年変化>

すべての校種において、平成23年度から減少傾向にあったが、小学校のみ、25年度から増加傾向となっている。

#### <前年度との比較>

- 小学校 ~前年度に比べ、20件増加している。
- 中学校 ~前年度に比べ、143件減少している。
- 高等学校 ~前年度に比べ、19件減少している。
- 全体 ~前年度に比べ、142件減少している。



### 2 学校種別暴力行為の発生学校数及び発生件数

		平成26年度			平成25年度		
		発生学校数		発生件数	発生学校数		発生件数
		学校数	発生率		学校数	発生率	
小学校	学校内	12校	1.1%	54件	12校	1.0%	30件
	学校外	5校	0.4%	6件	6校	0.5%	10件
	小計	—	—	60件	—	—	40件
中学校	学校内	100校	16.1%	593件	121校	19.1%	734件
	学校外	41校	6.6%	75件	53校	8.4%	77件
	小計	—	—	668件	—	—	811件
高等学校	学校内	86校	36.0%	187件	87校	36.3%	208件
	学校外	28校	11.7%	41件	29校	12.1%	39件
	小計	—	—	228件	—	—	247件
合計	学校内	198校	10.0%	834件	220校	10.9%	972件
	学校外	74校	3.7%	122件	88校	4.4%	126件
	小計	—	—	956件	—	—	1,098件

※発生率 = (発生学校数 / 公立学校総数) × 100

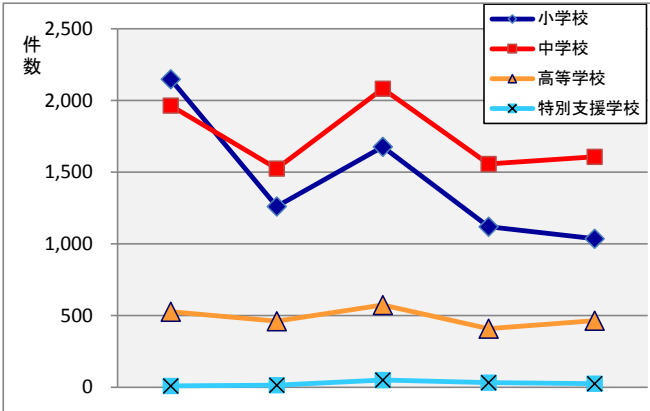
### 3 暴力行為の種別発生学校数及び発生件数

		平成26年度		平成25年度	
		発生学校数	発生件数	発生学校数	発生件数
対教師暴力	小学校	5校	20件	5校	8件
	中学校	36校	116件	40校	138件
	高等学校	17校	19件	13校	16件
	合計	58校	155件	58校	162件
生徒間暴力	小学校	9校	23件	13校	26件
	中学校	108校	382件	141校	438件
	高等学校	98校	155件	98校	179件
	合計	215校	560件	252校	643件
対人暴力	小学校	0校	0件	0校	0件
	中学校	14校	17件	11校	18件
	高等学校	11校	12件	11校	13件
	合計	25校	29件	22校	31件
器物損壊	小学校	3校	17件	4校	6件
	中学校	45校	153件	45校	217件
	高等学校	27校	42件	23校	39件
	合計	75校	212件	72校	262件

## 公立小・中学校、高等学校、特別支援学校のいじめ

○平成25年度から、「いじめ」については、高等学校通信制課程を調査対象として含めています。

### 1 いじめの認知件数の推移



	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
小学校	2,148 7.9	1,261 4.7	1,676 6.4	1,119 4.3	1,036 4.1
中学校	1,964 13.9	1,525 10.9	2,082 15.2	1,557 11.6	1,607 12.1
高等学校	528 4.6	461 4.1	574 5.3	409 3.7	464 4.3
特別支援学校	10 2.1	14 2.8	51 10.0	33 6.4	25 4.8
計	4,650 8.7	3,261 6.2	4,383 8.5	3,118 6.1	3,132 6.2

※ 上段は認知件数、下段は1,000人当たりの認知件数

※本調査におけるいじめの定義

個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立って行うものとする。

「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」とする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

「いじめ」の中には、犯罪行為として取り扱われるべきと認められ、早期に警察に相談することが重要なものや、児童生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるような、直ちに警察に通報することが必要なものが含まれる。

これらについては、教育的な配慮や被害者の意向への配慮のうえで、早期に警察に相談・通報の上、警察と連携した対応を取ることが必要である。

<経年変化>

いじめの認知件数は、20年度以降、減少と増加を繰り返しており、校種別では、中学校・高等学校は前年度に比べ増加したが、小学校・特別支援学校は前年度を下回る認知件数となった。

<前年度との比較>

- 小学校      ~前年度に比べ、      83件減少している。
- 中学校      ~前年度に比べ、      50件増加している。
- 高等学校    ~前年度に比べ、      55件増加している。
- 特別支援学校~前年度に比べ、    8件減少している。
- 全体        ~前年度に比べ、      14件増加している。

### 2 学校種別いじめの認知学校数

	認知学校数			
	学校数		認知率	
	平成26年度	平成25年度	平成26年度	平成25年度
小学校	277校	284校	24.7%	24.8%
中学校	301校	305校	48.5%	48.2%
高等学校	123校	122校	45.1%	44.4%
特別支援学校	14校	14校	21.5%	21.9%

※ 認知率 = (認知学校数 / 公立学校総数) × 100

### 3 いじめの解消状況

	いじめが解消しているもの(解消率)	
	平成26年度	平成25年度
小学校	94.2%	95.4%
中学校	94.6%	93.2%
高等学校	98.3%	97.6%
特別支援学校	100.0%	93.9%
計	95.1%	94.6%

### 4 いじめ発見のきっかけ（12項目から一つの項目）

	順位	いじめ発見のきっかけ			
		平成26年度		平成25年度	
小学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	61.1%	アンケート調査など学校の取組により発見	49.9%
	②	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	13.2%	学級担任が発見	18.2%
	③	本人からの訴え	10.8%	本人からの訴え	11.9%
	④	学級担任が発見	9.0%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	10.9%
	⑤	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	2.7%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	3.0%
	⑥	児童生徒（本人を除く）からの情報	2.0%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	2.2%
	⑦	学級担任以外の教職員が発見	0.8%	児童生徒（本人を除く）からの情報	2.1%
	⑧	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.3%	学級担任以外の教職員が発見	1.1%
	⑨	養護教諭が発見	0.1%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.4%
	⑩	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%	養護教諭が発見	0.2%
	⑪	地域の住民からの情報	0.0%	地域の住民からの情報	0.1%
	⑫	その他（匿名による投書など）	0.0%	その他（匿名による投書など）	0.0%
中学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	58.1%	アンケート調査など学校の取組により発見	54.1%
	②	本人からの訴え	18.5%	本人からの訴え	20.5%
	③	学級担任が発見	9.5%	学級担任が発見	9.8%
	④	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	8.2%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	8.3%
	⑤	学級担任以外の教職員が発見	2.3%	児童生徒（本人を除く）からの情報	2.7%
	⑥	児童生徒（本人を除く）からの情報	1.2%	学級担任以外の教職員が発見	2.1%
	⑦	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	1.1%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	1.7%
	⑧	養護教諭が発見	0.4%	養護教諭が発見	0.5%
	⑨	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.2%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.2%
	⑩	地域の住民からの情報	0.2%	地域の住民からの情報	0.1%
	⑪	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.2%	その他（匿名による投書など）	0.1%
	⑫	その他（匿名による投書など）	0.1%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%

	順位	いじめ発見のきっかけ			
		平成26年度		平成25年度	
高等学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	63.1%	アンケート調査など学校の取組により発見	60.4%
	②	本人からの訴え	20.3%	本人からの訴え	20.5%
	③	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	6.0%	学級担任が発見	7.1%
	④	学級担任が発見	5.0%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	4.9%
	⑤	学級担任以外の教職員が発見	2.6%	児童生徒（本人を除く）からの情報	3.2%
	⑥	児童生徒（本人を除く）からの情報	2.4%	学級担任以外の教職員が発見	2.2%
	⑦	養護教諭が発見	0.2%	養護教諭が発見	0.7%
	⑧	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.2%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.7%
	⑨	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.2%	その他（匿名による投書など）	0.2%
	⑩	地域の住民からの情報	0.0%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%
特別支援学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	56.0%	アンケート調査など学校の取組により発見	27.3%
	②	本人からの訴え	16.0%	学級担任が発見	21.2%
	③	学級担任が発見	12.0%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	21.2%
	④	児童生徒（本人を除く）からの情報	8.0%	学級担任以外の教職員が発見	15.2%
	⑤	学級担任以外の教職員が発見	4.0%	児童生徒（本人を除く）からの情報	9.1%
	⑥	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	4.0%	本人からの訴え	6.1%
	⑦	養護教諭が発見	0.0%	養護教諭が発見	0.0%
	⑧	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%
	⑨	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.0%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.0%
	⑩	地域の住民からの情報	0.0%	地域の住民からの情報	0.0%

### 5 いじめの態様（9項目から複数選択）

	順位	いじめの態様			
		平成26年度		平成25年度	
小学校	①	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	72.6%	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	70.2%
	②	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	32.3%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	27.5%
	③	仲間はずれ、集団による無視をされる。	23.2%	仲間はずれ、集団による無視をされる。	23.1%
	④	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	5.0%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	5.3%
	⑤	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	4.3%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	3.6%
	⑥	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	3.7%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	3.1%
	⑦	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	1.3%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	2.3%
	⑧	その他	1.2%	その他	1.1%
	⑨	金品をたかられる。	0.4%	金品をたかられる。	0.4%
中学校	①	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	75.7%	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	78.0%
	②	仲間はずれ、集団による無視をされる。	19.4%	仲間はずれ、集団による無視をされる。	21.0%
	③	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	18.0%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	18.6%
	④	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	8.3%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	8.7%
	⑤	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	7.3%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	5.5%
	⑥	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	3.4%	その他	2.9%
	⑦	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	2.6%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	2.4%
	⑧	その他	1.9%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	1.7%
	⑨	金品をたかられる。	0.7%	金品をたかられる。	0.4%
高等学校	①	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	71.8%	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	67.7%
	②	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	16.4%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	19.8%
	③	仲間はずれ、集団による無視をされる。	15.5%	仲間はずれ、集団による無視をされる。	16.9%
	④	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	13.1%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	16.1%
	⑤	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	8.2%	その他	5.4%
	⑥	その他	6.7%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	4.4%
	⑦	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	5.2%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	3.4%
	⑧	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	2.8%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	2.7%
	⑨	金品をたかられる。	1.3%	金品をたかられる。	2.0%
特別支援学校	①	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	56.0%	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	66.7%
	②	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	32.0%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	27.3%
	③	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	16.0%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	12.1%
	④	仲間はずれ、集団による無視をされる。	12.0%	金品をたかられる。	9.1%
	⑤	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	12.0%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	9.1%
	⑥	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	8.0%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	3.0%
	⑦	金品をたかられる。	8.0%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	3.0%
	⑧	その他	8.0%	仲間はずれ、集団による無視をされる。	0.0%
	⑨	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	4.0%	その他	0.0%

## 公立小・中学校の不登校

### 1 不登校児童生徒数（公立小・中学校）

	平成26年度		平成25年度	
小学校	812 人	0.32%	770 人	0.30%
中学校	3,447 人	2.60%	3,255 人	2.42%
計	4,259 人	1.10%	4,025 人	1.02%

※年間30日以上欠席した者のうち、主たる理由が「不登校」の者の数

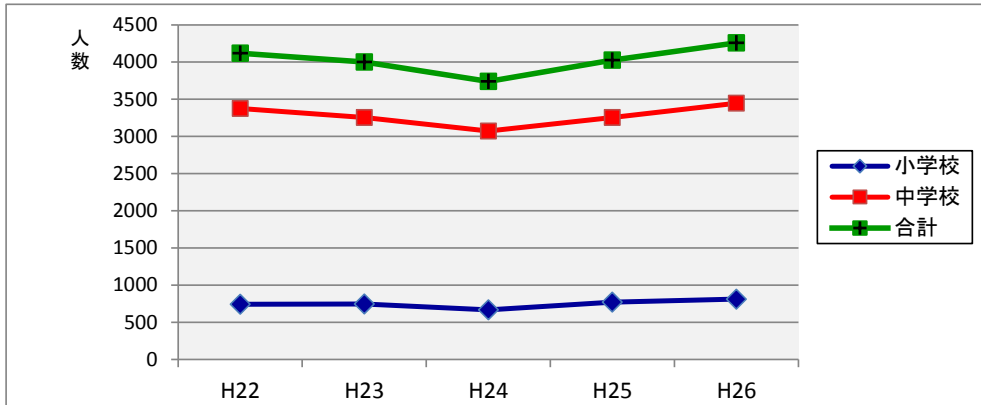
※「%」は在籍児童生徒数に対する不登校児童生徒数の割合

- 小学校 ～昨年度に比べ、42人増加（770→812）している。
- 中学校 ～昨年度に比べ、192人増加（3,255→3,447）している。
- 全体 ～昨年度に比べ、234人増加（4,025→4,259）している。

### 2 不登校の経年変化

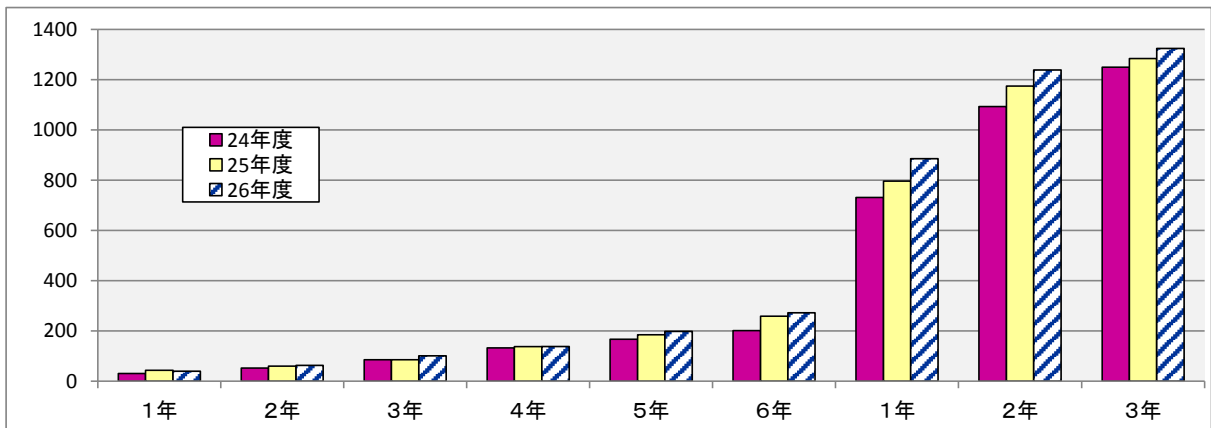
#### (1) 平成22年度以降の不登校の状況

年度間に通算30日以上欠席した児童生徒のうち、不登校を理由とする児童生徒数の推移



	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
小学校	742	747	667	770	812
(在籍比)	0.27%	0.28%	0.25%	0.30%	0.32%
中学校	3,376	3,254	3,073	3,255	3,447
(在籍比)	2.39%	2.33%	2.24%	2.42%	2.60%
合計	4,118	4,001	3,740	4,025	4,259
(在籍比)	1.00%	0.98%	0.93%	1.02%	1.10%

#### (2) 過去3年間の学年別不登校児童生徒数の推移



	小学校						中学校		
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
24年度	30	52	85	132	167	201	731	1,093	1,249
25年度	43	60	86	138	185	258	796	1,175	1,284
26年度	40	63	101	138	198	272	885	1,238	1,324

### 3 不登校になったきっかけと考えられる状況（19項目から考えられるもの全てを選び回答）

順位	不登校になったきっかけと考えられる状況						
	平成26年度		平成25年度				
小学校	①	本人に係る状況	不安など情緒的混乱	37.9%	本人に係る状況	不安など情緒的混乱	43.5%
	②	本人に係る状況	無気力	25.0%	本人に係る状況	無気力	25.7%
	③	家庭に係る状況	親子関係をめぐる問題	22.9%	家庭に係る状況	親子関係をめぐる問題	20.5%
	④	本人に係る状況	病気による欠席	14.8%	本人に係る状況	病気による欠席	13.2%
	⑤	学校に係る状況	いじめを除く友人関係をめぐる問題	12.1%	家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	13.0%
	⑥	学校に係る状況	学業の不振	11.0%	学校に係る状況	いじめを除く友人関係をめぐる問題	11.3%
	⑦	家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	10.7%	学校に係る状況	学業の不振	9.9%
	⑧		その他	7.1%	本人に係る状況	意図的な拒否	7.4%
	⑨	本人に係る状況	意図的な拒否	7.0%		その他	4.9%
	⑩	学校に係る状況	教職員との関係をめぐる問題	5.7%	学校に係る状況	教職員との関係をめぐる問題	3.9%
	⑪	家庭に係る状況	家庭内の不和	4.3%	家庭に係る状況	家庭内の不和	3.8%
	⑫	学校に係る状況	入学、転編入学、進級時の不適応	3.2%	学校に係る状況	入学、転編入学、進級時の不適応	3.5%
	⑬	本人に係る状況	病気による欠席、あそび・非行、無気力、不安などの情緒的混乱、意図的な拒否のいずれにも該当しない、本人に関わる問題	2.1%	本人に係る状況	病気による欠席、あそび・非行、無気力、不安などの情緒的混乱、意図的な拒否のいずれにも該当しない、本人に関わる問題	3.1%
	⑭		不明	1.7%	学校に係る状況	学校のきまり等をめぐる問題	1.6%
	⑮	学校に係る状況	学校のきまり等をめぐる問題	1.5%		不明	1.6%
	⑯	学校に係る状況	いじめ	1.0%	学校に係る状況	いじめ	1.3%
	⑰	本人に係る状況	あそび・非行	0.7%	本人に係る状況	あそび・非行	1.2%
	⑱	学校に係る状況	進路にかかる不安	0.2%	学校に係る状況	クラブ活動、部活動等への不適応	0.6%
	⑲	学校に係る状況	クラブ活動、部活動等への不適応	0.0%	学校に係る状況	進路にかかる不安	0.1%
中学校	①	本人に係る状況	不安など情緒的混乱	35.5%	本人に係る状況	無気力	33.2%
	②	本人に係る状況	無気力	30.1%	本人に係る状況	不安など情緒的混乱	31.2%
	③	学校に係る状況	いじめを除く友人関係をめぐる問題	16.4%	学校に係る状況	いじめを除く友人関係をめぐる問題	17.1%
	④	学校に係る状況	学業の不振	11.9%	学校に係る状況	学業の不振	10.9%
	⑤	本人に係る状況	病気による欠席	11.5%	本人に係る状況	病気による欠席	9.7%
	⑥	家庭に係る状況	親子関係をめぐる問題	8.3%	家庭に係る状況	親子関係をめぐる問題	9.2%
	⑦	本人に係る状況	あそび・非行	4.8%	本人に係る状況	あそび・非行	8.4%
	⑧	家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	4.7%	本人に係る状況	意図的な拒否	5.8%
	⑨	本人に係る状況	意図的な拒否	4.7%	家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	4.7%
	⑩	学校に係る状況	入学、転編入学、進級時の不適応	3.5%	本人に係る状況	病気による欠席、あそび・非行、無気力、不安などの情緒的混乱、意図的な拒否のいずれにも該当しない、本人に関わる問題	3.4%
	⑪	家庭に係る状況	家庭内の不和	2.8%	学校に係る状況	入学、転編入学、進級時の不適応	3.0%
	⑫	学校に係る状況	教職員との関係をめぐる問題	2.1%	家庭に係る状況	家庭内の不和	2.9%
	⑬		その他	2.1%	学校に係る状況	教職員との関係をめぐる問題	2.0%
	⑭	本人に係る状況	病気による欠席、あそび・非行、無気力、不安などの情緒的混乱、意図的な拒否のいずれにも該当しない、本人に関わる問題	2.0%	学校に係る状況	いじめ	1.5%
	⑮	学校に係る状況	学校のきまり等をめぐる問題	2.0%	学校に係る状況	クラブ活動、部活動等への不適応	1.4%
	⑯	学校に係る状況	クラブ活動、部活動等への不適応	1.7%	学校に係る状況	学校のきまり等をめぐる問題	1.4%
	⑰	学校に係る状況	進路にかかる不安	1.6%		不明	1.2%
	⑱	学校に係る状況	いじめ	1.5%	学校に係る状況	進路にかかる不安	1.2%
	⑲		不明	1.2%		その他	0.9%

#### 4 不登校児童生徒への指導結果状況

	小学校				中学校				計			
	人数		不登校児童に対する比率		人数		不登校生徒に対する比率		人数		不登校児童生徒に対する比率	
	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25
指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒	288	264	35.5%	34.3%	1,038	894	30.1%	27.5%	1,326	1,158	31.1%	28.8%
指導中の児童生徒	524	506	64.5%	65.7%	2,409	2,361	69.9%	72.5%	2,933	2,867	68.9%	71.2%
うち登校に至らないものの好ましい変化が見られるようになった児童生徒	141	127	17.4%	16.5%	606	630	17.6%	19.4%	747	757	17.5%	18.8%
計	812	770			3,447	3,255			4,259	4,025		

#### 5 「指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒」に特に効果のあった学校の措置

	順位	効果があった学校の措置
小学校	①	家庭訪問を行い、学業や生活面での相談にのるなど様々な指導・援助を行った。
	②	登校を促すため、電話をかけた後迎えに行くなどした。
	③	保護者の協力を求めて、家族関係や家庭生活の改善を図った。
	④	不登校の問題について、研修会や事例研究会を通じて全教師の共通理解を図った。
	⑤	全ての教師が当該児童生徒に触れ合いを多くするなどして学校全体で指導に当たった。
	⑥	様々な活動の場面において本人が意欲をもって活動できる場を用意した。
	⑦	スクールカウンセラー、相談員等が専門的に相談に当たった。
	⑧	保健室等特別の場所に登校させて指導に当たった。
	⑨	教師との触れ合いを多くするなど、教師との関係を改善した。
	⑩	教育相談センター等の相談機関と連携して指導に当たった。
	⑪	友人関係を改善するための指導を行った。
	⑫	授業方法の改善、個別の指導など授業がわかるようにする工夫を行った。
	⑬	教育相談担当の教師が専門的に指導に当たった。
	⑭	病院等の医療機関と連携して指導に当たった。
	⑮	養護教諭が専門的に指導に当たった。
	⑯	その他
中学校	①	家庭訪問を行い、学業や生活面での相談にのるなど様々な指導・援助を行った。
	②	登校を促すため、電話をかけた後迎えに行くなどした。
	③	不登校の問題について、研修会や事例研究会を通じて全教師の共通理解を図った。
	④	保護者の協力を求めて、家族関係や家庭生活の改善を図った。
	⑤	スクールカウンセラー、相談員等が専門的に相談に当たった。
	⑥	全ての教師が当該児童生徒に触れ合いを多くするなどして学校全体で指導に当たった。
	⑦	教師との触れ合いを多くするなど、教師との関係を改善した。
	⑧	保健室等特別の場所に登校させて指導に当たった。
	⑨	様々な活動の場面において本人が意欲をもって活動できる場を用意した。
	⑩	友人関係を改善するための指導を行った。
	⑪	教育相談センター等の相談機関と連携して指導に当たった。
	⑫	養護教諭が専門的に指導に当たった。
	⑬	授業方法の改善、個別の指導など授業がわかるようにする工夫を行った。
	⑭	病院等の医療機関と連携して指導に当たった。
	⑮	教育相談担当の教師が専門的に指導に当たった。
	⑯	その他



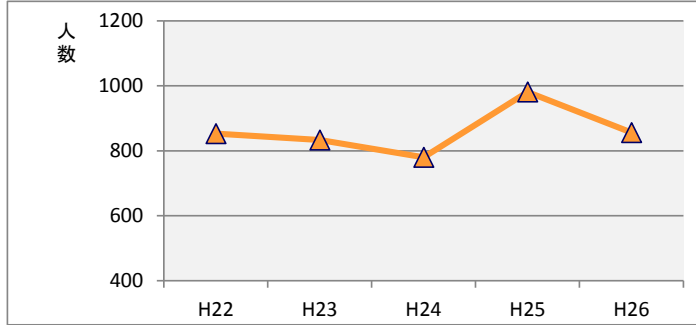
## 公立高等学校の不登校

### 1 公立高等学校における理由別長期欠席者数

年度	在籍数（人）	不登校	経済的理由	病気	その他	計
平成26年度	104,613 (在籍比)	856 0.82%	21 0.02%	222 0.21%	68 0.07%	1,167
平成25年度	106,151 (在籍比)	981 0.92%	24 0.02%	198 0.19%	28 0.03%	1,231

※年間30日以上欠席した者

### 2 公立高等学校における不登校の状況



<前年度との比較>

- 人数 ~前年度に比べ、125人減少している。
- 在籍比~前年度より、0.10ポイント減少している。

【内訳】

- 全日制 370人（0.4%）（前年度458人（0.5%））
- 定時制 486人（10.4%）（前年度523人（10.5%））

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
不登校生徒数	853	833	780	981	856
在籍比	0.75%	0.75%	0.71%	0.92%	0.82%

※年間30日以上欠席した者のうち、主たる理由が「不登校」の者の数  
※平成16年度から調査を実施

### 3 学年別不登校生徒数

	不登校生徒数					
	平成26年度			平成25年度		
	人数	在籍比	構成比	人数	在籍比	構成比
第1学年	151	0.57%	17.6%	219	0.80%	22.3%
第2学年	104	0.40%	12.1%	128	0.46%	13.0%
第3学年	53	0.19%	6.2%	74	0.26%	7.5%
第4学年	1	0.19%	0.1%	3	0.47%	0.3%
単位制	547	2.28%	63.9%	557	2.50%	56.8%

### 4 不登校になったきっかけと考えられる状況（19項目から考えられるもの全てを選び回答）

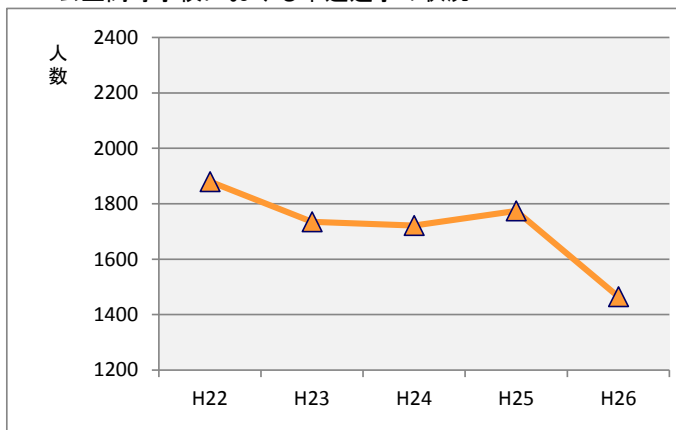
	不登校になったきっかけと考えられる状況					
	平成26年度			平成25年度		
	本人に係る状況	状況	割合	本人に係る状況	状況	割合
①	本人に係る状況	無気力	25.6%	本人に係る状況	無気力	30.3%
②	本人に係る状況	不安など情緒的混乱	19.4%	本人に係る状況	不安など情緒的混乱	19.4%
③	本人に係る状況	あそび・非行	15.5%	学校に係る状況	いじめを除く友人関係をめぐる問題	13.3%
④	本人に係る状況	病気による欠席	12.1%	本人に係る状況	病気による欠席	9.5%
⑤	学校に係る状況	いじめを除く友人関係をめぐる問題	10.0%	本人に係る状況	あそび・非行	9.5%
⑥	本人に係る状況	意図的な拒否	6.5%	学校に係る状況	入学、転編入学、進級時の不適応	6.8%
⑦	学校に係る状況	学業の不振	5.6%	本人に係る状況	意図的な拒否	5.5%
⑧	家庭に係る状況	親子関係をめぐる問題	5.5%	家庭に係る状況	親子関係をめぐる問題	4.7%
⑨	不明		3.9%	学校に係る状況	学業の不振	4.3%
⑩	学校に係る状況	入学、転編入学、進級時の不適応	3.3%	家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	3.3%
⑩	家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	3.3%	学校に係る状況	進路にかかる不安	2.7%
⑫	学校に係る状況	進路にかかる不安	2.8%	本人に係る状況	病気による欠席、あそび・非行、無気力、不安などの情緒的混乱、意図的な拒否のいずれにも該当しない、本人に関わる問題	2.7%
⑬	本人に係る状況	病気による欠席、あそび・非行、無気力、不安などの情緒的混乱、意図的な拒否のいずれにも該当しない、本人に関わる問題	2.6%	家庭に係る状況	家庭内の不和	2.0%
⑭	家庭に係る状況	家庭内の不和	2.2%	その他		1.4%
⑮	学校に係る状況	クラブ活動、部活動等への不適応	1.1%	学校に係る状況	学校のきまり等をめぐる問題	1.3%
⑯	学校に係る状況	教職員との関係をめぐる問題	0.9%	学校に係る状況	クラブ活動、部活動等への不適応	0.7%
⑰	学校に係る状況	学校のきまり等をめぐる問題	0.8%	不明		0.6%
⑱	その他		0.7%	学校に係る状況	教職員との関係をめぐる問題	0.3%
⑲	学校に係る状況	いじめ	0.0%	学校に係る状況	いじめ	0.0%



## 公立高等学校の中途退学

○平成25年度から、「中途退学」については、高等学校通信制課程を調査対象として含めています。

### 1 公立高等学校における中途退学の状況



#### <経年変化>

過去9年間、中途退学者数は減少傾向が続いていたが、平成25年度は、調査対象として通信制課程を追加したことから、中途退学者数は前年度に比べ増加したが、26年度は前年度に比べ減少し、在籍比でも0.2ポイント減少した。

#### <前年度との比較>

○人数 ~前年度に比べ、299人減少している。

○在籍比~前年度に比べ、0.2ポイント減少している。

#### 【内訳】

全日制 923人（0.9%）（前年度1,090人（1.1%））  
 定時制 412人（8.8%）（前年度 517人（10.4%））  
 通信制 130人（4.1%）（前年度 157人（4.0%））

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
中途退学者数	1,880	1,735	1,721	1,764	1,465
中途退学率	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	1.4%

### 2 学年別中途退学者数

	中途退学者数					
	平成26年度			平成25年度		
	人数	中退率	構成比	人数	中退率	構成比
第1学年	586	2.2%	40.0%	710	2.6%	40.2%
第2学年	320	1.2%	21.8%	399	1.4%	22.6%
第3学年	130	0.5%	8.9%	186	0.7%	10.5%
第4学年	11	2.1%	0.8%	22	3.4%	1.2%
単位制	418	1.5%	28.5%	447	1.7%	25.3%

### 3 中途退学理由（8項目の主たる理由から選び回答）

順位	中途退学理由			
	平成26年度		平成25年度	
①	進路変更	55.8%	進路変更	47.6%
②	学校生活・学業不適応	27.4%	学校生活・学業不適応	31.2%
③	家庭の事情	4.6%	病気が死亡	5.2%
④	学業不振	3.8%	学業不振	4.6%
④	病気が死亡	3.8%	家庭の事情	4.3%
⑥	問題行動等	2.9%	問題行動等	3.6%
⑦	その他の理由	1.2%	その他の理由	2.8%
⑧	経済的理由	0.5%	経済的理由	0.7%